

## 林野庁

林野庁について

お知らせ

政策について

申請・お問い合わせ

国有林野情報

[ホーム](#) > [分野別情報](#) > [森林×脱炭素チャレンジ](#) > [森林×脱炭素チャレンジについて](#)

## 森林×脱炭素チャレンジについて

## 取組のねらい

日本の国土の3分の2は森林です。森林を適切に整備、保全することは、[森林によるCO2吸収量の確保や強化](#)につながり、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献します。

一方、SDGsやESG投資への関心が高まる中、[企業等が支援をして行う森林づくりが全国で広がっています](#)。民間の活力を生かした森林づくりは森林整備による地球温暖化対策を国民運動として展開する上で、また、豊かな自然を未来に守り伝えるためにも重要です。

このため、[企業等による森林づくりを「脱炭素」の視点などから顕彰](#)することで、さらに多くの企業等に森林づくりへご参画いただくことを目指します。



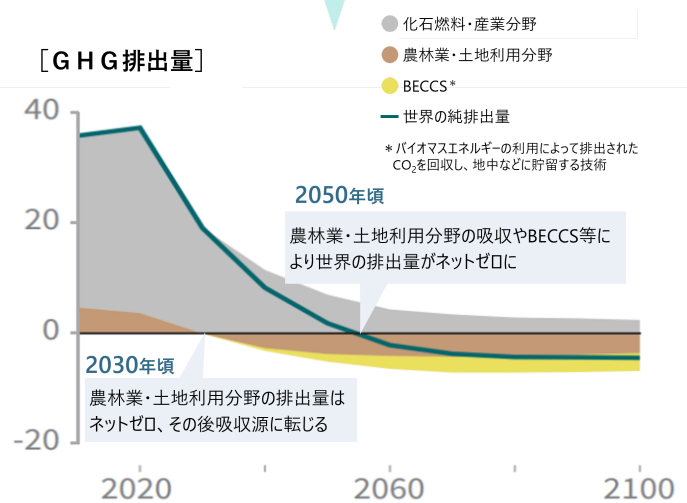
## 世界が注目！

## 吸収源としての森林の重要性

2021年に開催された気候変動枠組条約COP26において、1.5℃目標（）達成に向けて努力を継続していくことが明記された「グラスゴー気候合意」が採択されました。その中で、CO2吸収源や貯蔵庫としての森林の重要性についても記載されています。

カーボンニュートラルを達成するためには、温室効果ガスの排出削減だけでなく、農林業・土地利用分野におけるCO2吸収源対策等の推進が不可欠であり、森林への注目度はますます高まっています。

## 気温上昇を1.5℃に抑えるための世界の温室効果ガス(GHG)排出経路のシナリオ



※ IPCC(2018) "Global Warming of 1.5°C"、(公財)地球環境戦略研究所 山ノ下麻木乃、梅宮知佐「気候変動と森林に関する国際動向-COP26の報告」(「林径」2021年12月No.63)を元に作成。

# 森林×脱炭素チャレンジ2023 受賞者の取組概要

応募総数 65件（森林づくり部門 50件、J-クレジット部門 15件）のうち13件の受賞者を選定しました。

受賞者13件の取組内容の概要については以下のとおりです。

【グランプリ 1件、優秀賞 12件（森林づくり部門 9件、J-クレジット部門 3件）】

※今年度のグランプリは、J-クレジット部門から選定されました。

## グランプリ（農林水産大臣賞）

わ  
和の会／（株）明和不動産／（株）明和不動産管理  
アットグリーン  
小国町（熊本県）／（株）ATGREEN（※共同応募）

- ・地元不動産企業等、熊本県小国町、クレジット販売仲介者との間で、J-クレジットを活用した森林整備の推進に向けた協定を締結。
- ・協定のもと、クレジットの売却益を活用して、豪雨被害を受けた森林作業道の復旧を継続的に実施し今後の整備につなげるとともに、会員企業には、森林への関わりや取組の成果を実感してもらうため、間伐材を活用したノベルティ品を提供。

100  
t-CO<sub>2</sub>

## 優秀賞（林野庁長官賞）

### 森づくり部門

#### （株）NTTドコモ

全47都道府県に「ドコモの森」を開設し、社員による植林や下刈りなどの取組を実施。また、地域の林業関係者と連携し、ICT技術を用いた林業の効率化に向けたビジネスモデルを構築。

3  
t-CO<sub>2</sub>

#### 国土防災技術（株）

山形県と協定を結び、県内の森林整備活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」を実施。間伐材等を原料とした土壌改良剤を活用した森林の早期再生を実証。

12  
t-CO<sub>2</sub>

#### 越井木材工業（株）

社有林整備を通じて生産される木材を活用して、歩留まり改善につながる多様な商品を開発。新たなサプライチェーンの構築に向けて、屋外家具やリフォーム市場等での販路を拡大。

133  
t-CO<sub>2</sub>

#### （株）志賀郷杜栄

手入れが遅れていた地元共有林において、建設業で培った技術を活かして高密度の作業道を開設。また、トレーラーハウスや生活用品など、間伐材を有効活用した製品を開発。

55  
t-CO<sub>2</sub>

## 住友林業（株）

社有林を適正に管理するとともに、全国6箇所での苗木生産を通じて、各地の再造林の取組にも貢献。また、独自の技術を生かした効率的な苗木生産を実現。

3,137  
t-CO<sub>2</sub>

## 日本たばこ産業（株）

自治体と協定を締結し、全国9か所に「J.Tの森」を開設。社員や地域住民が交流するイベントを毎年各地で開催し、森林整備や木工教室などを実施。

413  
t-CO<sub>2</sub>

## 美深町（北海道）

町有林の整備を通じて生産される森林認証材を用いた校舎の建築や、未利用材の木質バイオマス利用など、森林資源を有効活用。また、民間企業との協働で植樹祭を開催。

54  
t-CO<sub>2</sub>

## （株）山形銀行

県との協定に基づく森林整備への支援や県内の信用金庫と連携した植林活動などを実施。また、投融資方針において、違法伐採が疑われる事業への投融資は行わないことを表明。

412  
t-CO<sub>2</sub>

## ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会

森林整備を通じた持続可能なまちづくりに向けて、地元の企業・団体と協力し、侵入竹の伐採や植林を実施。伐採した竹は、産官学民連携によるイベントや土壌改良などに活用。

2  
t-CO<sub>2</sub>

## J-クレジット部門

（※J-クレジット部門は共同応募）

## カルネコ（株）／（株）八葉水産／登米市（宮城県）

豊かな森は海も豊かにするとの考えの下、1商品につき1円を購入資金に充てるオフセット商品を販売して、登米市有林の森林整備に貢献。市が開催する植樹祭にも社員が参加。

163  
t-CO<sub>2</sub>

## 日本製紙（株）／日本コカ・コーラ（株）

両社で締結した「協働基本合意書」に基づき、クレジット売却益を活用して、社有林の森林整備を継続的に実施。購入したクレジットは、自動販売機のCO<sub>2</sub>排出量のオフセットなどに活用。

1,000  
t-CO<sub>2</sub>

## （株）ロイヤリティマーケティング／北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会／（一社）more trees

アプリユーザーの環境貢献度などに応じて、北海道4町の町有林のクレジットを購入する取組。購入したクレジットは、運営企業の事業活動で生じるCO<sub>2</sub>排出量とのオフセットに活用。

100  
t-CO<sub>2</sub>